



日常記憶の錯誤，不合理な信念，教育実践を クリティカルに考える

人間文化学部 国際文化学科
教授 向居 暁 (むかい あきら)

連絡先 県立広島大学 広島キャンパス 1814号室
Tel 082-251-5178 (代表) Fax 082-251-9405 (代表)
E-mail mukai@pu-hiroshima.ac.jp



専門分野： 心理学/教育心理学, 心理学/認知心理学

キーワード： 虚記憶, 批判的思考(クリティカル・シンキング),
心霊信奉, 懐疑主義, 不思議現象, 認知心理学の
教育への応用

● 現在の研究について

これまで、「日常記憶」と分類される認知心理学の研究領域において、研究を行ってきました。その中でも、「なかったことを誤って思い出してしまう」現象である『虚記憶』に関して研究しています。また、教育に関する認知心理学的研究に関心があります。例えば、どのようにしたら「証拠に基づく論理的で偏りのない思考」である『批判的思考(クリティカル・シンキング)』が育成できるのかについて研究してきました。

これらの研究が、これまで私たちを悩ませ、時に不安に陥れてきた、心霊体験のような『不思議現象』と呼ばれる研究テーマで組み合わせさせてしまいました。例えば、「なぜ霊魂の存在を信じるのだろうか」、「なぜ人間は幽霊を見る(と報告する)のだろうか」、「いやいや、批判的思考を用いれば、霊魂や幽霊の存在は否定できるのではないか」、「そもそも『幽霊を見た』となどという心霊体験は虚記憶の一種ではないか」といった感じです。このように、「心霊体験は、日常生活において誰にでも起こりうる虚記憶の一種である」と仮定し、そのメカニズムを検討する研究を行っています。しかしながら、このメカニズムに関連すると仮定される変数(性格特性, 思考スタイル, 発達や加齢など)は多種多様で、さらに、日本独自の文化的背景も影響し、まだまだその姿を捉えることはできていません。今後、研究成果を蓄積することで、心霊現象を信じ、実際に体験した(と思う)メカニズムがわかってきます。そして、心霊現象

に対して人々がクリティカルに考えることを様々な方法で支援できれば(実は、これが難しい!), 結果的に、靈感商法被害やカルト被害の予防につながるのではないかと期待しています。

● 今後進めていきたい研究について

心理学研究者として、上述したような理論的研究を続けるのは、もちろんのことですが、教職担当という立場から、心理学研究(特に、認知心理学)によってもたらされた知見を教育現場でいかにして活用可能かについてより具体的に検討したいと考えています。残念ながら、認知心理学研究の知見は、非常にシンプルな記憶の原理でさえ、教育実践において十分に活用されているとはいえません。したがって、心理学によって教育を充実させるための応用研究も行う予定です。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

これまで学生の地域貢献活動を支援してきました。今後も、主として教職を志す学生の興味・関心を活かしながら、学校を中心として地域と密接な関係をつくり出し、そして、主体的な社会人として地域に貢献できる教員の養成を重視したいと考えています。そのため、そのような学生の「パワー」が必要な学校などの教育機関はもとより、地方公共団体などの皆様と連携し、学生のボランティア活動を支援します。もちろん、研究者として、心理学研究の知見を活用した学校教育機関における教育実践にも貢献できると思います。

● これまでの連携実績

教職希望学生による地域貢献活動支援, 研究者としての公開講座・講演活動など多数(香川県)